

令和 2 年度 (2020 年度) 第 1 回障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会 議事概要

1 地域課題の決定

前年までの「就労支援について」「相談支援体制の充実・強化について」の 2 つの地域課題に加え、「障がい（児）者と地域住民の相互理解」を新たな地域課題とした。

2 地域課題についての主な意見

(1) 就労支援について

- ① 稚内市の住民が豊富町や幌延町の就労継続支援 B 型事業所を利用することが少なくない。他町のグループホームに入りながら生活を送る方もいる。
- ② 障がいのあるお子さんが成長して就労支援サービスを利用する時、サービスが揃っている都会に親も含めて転出する、お子さんだけで転出する場合がある。

(2) 相談支援体制の充実・強化について

- ① どこに相談したらよいかという窓口が大事。
- ② 義務教育～高校～就労の流れの中で支援が途切れがちになることが、全国的な課題となっているので、教育と福祉の連携について協議していきたい。
- ③ 町村で暮らす当事者が他市町村でサービスを受ける時、当事者のいる市町村と、当事者が利用する別の市町村の事業所との連携がなくて大変なこともあった。
町村と、稚内市の事業所のネットワークが薄いと、なかなかサービスの提供に至らないケースがある。
- ④ 稚内市内の方ですら思うようにサービスを利用できないところがある中で、他の町村からのご依頼に応えきれない部分があるかと思う。
稚内市はまだ恵まれていると思うがこの地域は十分な基盤が整っているとは必ずしも言えない。
- ⑤ サービスがない、資源がないと言っても仕方がないので、知恵を出し合って当面できることをしていけたらと思う。
- ⑥ 社会資源の開発や改善も、市町村の自立支援協議会の大きな役割の一つと思う。
稚内市の自立支援協議会は結構活動されているという話だが、そもそも自立支援協議会がない町村もある。
- ⑦ 障がい者が地元で利用したいサービスがなく他の市町村へ行く現状は、もう地元市町村だけでは解決できなくなっている、広域的な課題なのだろうということ。
市町村と自立支援協議会は、そういった現状を意識してほしい。
- ⑧ 宗谷管内は道北エリアだが、旭川市や名寄市の障がい者福祉の拠点に相談する、利用するのは難しい。管内に関係機関や事業所のネットワークがあった方が良い。
- ⑨ 自立支援協議会にも、進んでいるところはこうしていると、コーディネーターが情報提供して、形だけではなくちゃんと議論する場になっていただければいいと思う。
- ⑩ 教育と福祉が連携して、1 人の人を見て関わっていかなければならないので、そこをうまく調整したり、連携できたらいいと思う。

(3) 障がい（児）者と地域住民の相互理解について

- ① マスクが苦手、手洗いがうまくできない、街中で大声を上げてしまうといったコロナ感染対策をうまくできない障がい者への理解とサポートが今後課題になる。
- ② 地域住民や学校の先生、障がいや高齢者サービス事業所の方などに福祉に関する意見を聞いたところ、「障がい児者は、どこにどんな方がいるのか見えない。」という声が非常に多かったのが印象的だった。
そして、障がいをもつ方は、知って理解してほしいと積極的に発言する方と、学校や社会等で差別や偏見があるから知られたくないという方に、二極化されるという話も聞かれた。

- ③ 障がいのある方に民生委員が関わっているケースはほとんどない。
これが、地域で障がい者が見えない話につながっていく。
- ④ 障がいに対する差別や偏見は根深いということで、差別的な言動がなくても、住みづらさ居づらさを感じるという点もあるかと思う。
- ⑤ 地域住民は公式な資料等ではなく、活動等が見えるかどうかで判断する傾向があると思う。
地域に根ざした福祉事業や、当事者が地域の行事に参加して活動を見せるというのは、非常に大切だと思う。

(4) その他

- ① 特別支援学級の教員として、親御さんと、障がいを持つお子さんだけではなく、同じ学校にいる兄弟にも接している。
兄弟は、親にも言えない、自分自身でもなかなか認めてあげられない気持ちを抱え、思春期を超えたら辛くなる子もいる。障がい児とたくさん関わりを持ち、共に時間を過ごしている兄弟にも、ぜひ、扉が開けばいいと思う。
- ② 今回提案いただいた新たな地域課題「地域住民の相互理解」をテーマに、委員会として啓発事業的なイベントや研修会等をやるということであればやったらいいのではないかと。
- ③ 地域住民には、地域づくり委員会は全く知られていない。障がい福祉関係者もよくわかっていないところがあるので、地域づくり委員会について発信したい。
- ④ 地域づくり委員会として知ってほしい情報をネットに出せば見る方もいると思う。